

from USA

ピアノ猫ノラ、リトアニアの音楽家と夢の共演

サティかドビュッシーもかくやと思わせるアンニュイな指使い、じやなかった前足使いで一世を風靡したピアノスト猫、ノラをご存知でしょうか。07年9月号本欄でも取り上げたのでご記憶の方もいらっしゃるかもしれませんが。そのノラがこのたび、ついにコンサートデビュー(ただしビデオでの出演ですが)したのでです!

この歴史的な一曲を作曲したのは、リトアニアの指揮者、ミンドーガス・ピエカイティス氏。友人が送ってくれた動画のリンクでノラがピアノを弾く姿

を見て(YouTubeのNora Pianoと入れると検索できます)、インスピレーションが湧いたのでそうです。

「ミンドーガス氏から、ノラを主役にコンチェルトを作曲したいと打診があったのは、今年の4月のことでした」と、ノラのお父さんバーネル・ヨウ!さんは言います。バーネルとノラのお母さんベツツイーはさっそく、ノラの即興演奏を記録したビデオを送りました。そのビデオを元に、ミンドーガス氏はまず、ノラの即興演奏を楽譜に起こすことからはじめたそう。作

曲ははじめて、というミンドーガス氏。けれど猫的音楽にふさわしい直感的閃きのもとに作曲作業が進み、片手に指揮棒、片手にリモコン(ノラの演奏はDVDで映写されたため)のリハーサルをこなし、6月5日には、リトアニアの海港都市クライペダのコンサートホールで、世界の猫のコンチェルトならぬCATcerto……訳してネコンチェルト?! が演奏されたのです。

しかしなにしろ相手は猫。「ミュージシャンたちはノラの弾くメロディを暗記することはできても、ミヤオ

ジシャンと同じ考え方はできないからね」とミンドーガス氏も認めるように、ビデオとの共演はなかなか大変だったようです。

巨大スクリーンに映し出されたノラちゃんは鍵盤に前足をかけてスタンバイ。家族の他の猫たちが「にやんだら?」と見守る中、鍵盤から前足をはずさずに集中するプロ根性を見せてくれます。

注目の、ネコンチェルト。はヴィオラとバイオリン、オーボエの優しくも豊かな音色ではじまります。ノラのピアノの音色は、眠る森に落ちた月のしず

くのように気まぐれで繊細。大画面のノラをじっと見守りながらオーケストラを指揮するミンドーガス氏の視線はとて優しく、見ていてほっと心温まること請け合いです。

この、ネコンチェルトは英国のBBC放送でも大きく取り上げられ、BBCホームページでは他の政治や経済ニュースを引き離して注目度ナンバー1のニュースとして報道されました。

セレブ街道一直線!のノラちゃん。先頃は子供のための絵本「マイ・ストーリー」も上梓しました(英語版はamazon.comで入手可)。ネコンチェルト第2弾も考えているよ、とミンドーガス氏。今後の展開が待たれます。

(文・渡辺 葉)

☆ミンドーガス・ピエカイティス氏HP
http://www.piecaltis.eu

☆ネコンチェルトHP
http://catcerto.com

※、Videos をクリックすると、この演奏の様子が見られます。

Yo Watanabe
エッセイスト、翻訳家。ニューヨーク在住。主な著書に「ニューヨークの天使たち」「樹のあるところに、住みたくなったから、オレゴン州ポートランドのゆるやかな暮らし」がある。



毎日ピアノの練習♪

©ハーヤキル



リトアニアの指揮者ミンドーガス氏



夢のネコンチェルト!

©ハーヤキル



©ハーヤキル